

発行所 環境農業新聞社
編集発行人 成瀬一夫
東京都豊島区東金町1-41-9
〒125-0041 フランス堂ビル3階
電話 03-3826-5212
FAX 03-3826-5217
年間購読料 3,000円(税・送料込)
郵便振替口座 00150-2-290578

環境農業新聞購読方法

年3,000円

毎月15日発行

FAX、メールでお申し込み下さい。

郵便振替口座 00150-2-290578

環境農業新聞

メール:ecoagri-na@sweet.ocn.ne.jp



初日午前中に記念写真

体・心・魂を癒す氣の医学

ZEN ホメオパシーが人類を救う!

全国各地で活躍する
ホメオパスが集結

第20回記念JPHMAコンGRESS、盛大に開催

難病、発達障害を改善

由井名誉会長 感動して拍手鳴り響く
の基調講演

「再現性のあるものは技術。理論は後付け」ホメオパシー療法は全国のホメオパスの症例発表で色々な病を完治させているが、現代医療業界にとって脅威な存在。必ず薬漬けにする医療、薬業界の反撃が出てくること間違いなし。隠蔽・捏造の塊で多くの国民を騙し続けることはできない筈だ。国家予算が増え続けているが、それを阻止できないのか。予防医学や漢方の復活に期待高まる中、日本ホメオパシー医学協会は12月20日、21日の両日、東京・世田谷区民会館において第20回記念JPHMAコンGRESSを盛大に開催した。今回のテーマは「体・心・魂を癒す氣の医学ZENホメオパシーが人類を救う!」。年に1度の学術大会に相応しく全国各地で活躍しているホメオパスが色々な症例を発表、ポスター発表も行われた。海外から英国からトレバー・ガン博士、ドイツからロジャー・ソンネンシュミット氏が参加した。(関連記事6面)



基調講演する由井名誉会長



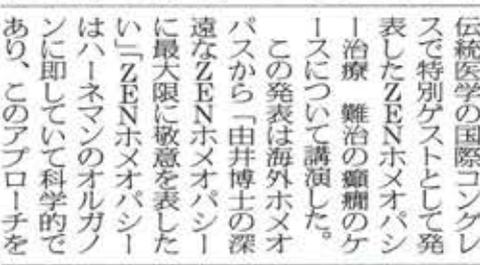
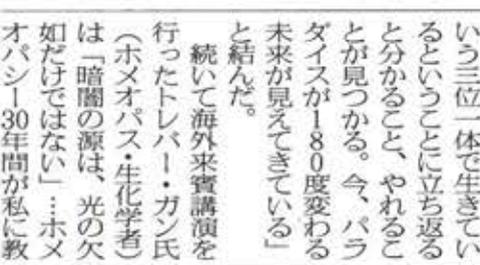
大会長を務めた松尾会長



トレバー・ガン氏



ロジャー・ソンネンシュミット氏



20回記念大会となった今回のコンGRESSは、お祝いのムードの中、松尾敬子大会長、由井寅子名誉会長の挨拶で始まった。松尾大会長は「第20回という記念すべき大会、皆さんこの日を迎えることができたことは素晴らしいことです。由井名誉会長はゼロからホメオパシーをスタートさせ、様々な困難を乗り越えてZENホメオパシーを確立しました。氣の医学として発展してきました。ホメオパスは魂のホメオパスとなるために日々実践と研鑽を積んできてい

ます。その素晴らしい成果と想いを一緒に共有したいと思えます」と力強く挨拶した。由井名誉会長は「23年前に日本に帰ってきて、最初は医療の取り組みを行い、それから日本人は罪悪感、自己卑下する

その後、「豊受御古菌」培養成功での自然型農業支援事業の展開(小

「魂の救済を目的とした寅子先生のZENホメオパシーは現代のあらゆる難病や子供たちの発達障害を改善し、素晴らしい治療法だと思えます」という手紙が披露された。

その後、症例発表が繰り広げられた。「リュウマチからの二次性の線維筋痛症が、鍼灸とホメオパシーで改善したケース」(橋本孝子)、「ホメオパス(仙台)」、「自分を許し受け入れること」(心斎橋・不整脈が改善したケース)、「豊田明子ホメオパス(福岡)」、「ホメオパシーでの災害対策、ホームキットの有効活動」(台風15号、19号、21号からの大雨。千葉鴨川で被災した経験から)

次に国内来賓講演。自然派医師となっている高野弘之医師(豊受クリニック院長)は「現代において、私達は固定観念に縛られ、片寄りすぎているために、がんじがらめで動けなくなっている。もっとバランスをとって生きられるといい」と語り、「肉體、精神、靈性と

「すこく発達を感じられるというのがありがたくて、今まではまた再発するんじゃないかという私達の恐怖が凄かったのですけれども、そういう次元にないというか、寅子先生とのセッションでそこまで引き上げていただいたなどというのを凄く感じています」とお母さんから感謝の言葉が述べられた。

林且幸氏(日本豊受自然農園農場)、自然農での豊受米(朝日米)、古代米黒米の栽培報告(久木田健介氏(同南農農場)、藍、ウコンなどの自然農草木染での健康・衣料文化の提供)大脇達也氏(同南農農場)、トドマツ、カラマツを活用した精油商品化プロジェクト(丸丸久氏(同洞爺農場)、床上浸水被害の住居悪臭が「豊受御古菌」で解決した体験(阿部氏(豊受会員))

「日本の伝承医療の魅力」と今後の可能性について」と題して語った。その中で「誰もがその効果を客観的に確認することができる」ことが、将来の生薬学、医療制度のなかでも重要なことになると語った。

最後に由井寅子名誉会長の基調講演。由井名誉会長は、タ

人が多いということから、インナーチャイルドの問題に取り組み、自分を愛し、自分を受け入れられるようになってきました。そしてその後、靈性の問題に取り組みで果と想いを一緒に共有したいと思えます」と力強く挨拶した。

「その後、症例発表が繰り広げられた。」「リュウマチからの二次性の線維筋痛症が、鍼灸とホメオパシーで改善したケース」(橋本孝子)、「ホメオパス(仙台)」、「自分を許し受け入れること」(心斎橋・不整脈が改善したケース)、「豊田明子ホメオパス(福岡)」、「ホメオパシーでの災害対策、ホームキットの有効活動」(台風15号、19号、21号からの大雨。千葉鴨川で被災した経験から)

「すこく発達を感じられるというのがありがたくて、今まではまた再発するんじゃないかという私達の恐怖が凄かったのですけれども、そういう次元にないというか、寅子先生とのセッションでそこまで引き上げていただいたなどというのを凄く感じています」とお母さんから感謝の言葉が述べられた。

えた事と題して話を展開した。トレバー・ガン氏は、左脳と右脳のバランスをとることが大切と語りながら「病氣に関して治療していくには、どんな状態にしているかが大きく影響します。治療するのに恐怖や不安な心でいるのか、あるいはリラックスして身を任せているかによって明らかに違ってくる。どんな状態でも常にリラックスして適用していくことが、治療していくことの秘訣となります」と語った。

第20回記念JPHMA コンGRESS 2日目

治癒症例、ポスター発表、相次ぎ好評

多くのホメオパスが誕生

由井名誉会長 難聴の原因は前世から

第20回記念JPHMAコンGRESSの2日目。この日も最高潮の盛り上がりを見せ記念大会にふさわしい内容だった。ホメオパシー時代が遂にやってきた。日本の医療改革が始まったような雰囲気でも参加者一人一人の顔が自信に満ち、症例発表も充実したものであった。次回のコンGRESSは令和2年10月3日、4日に開催する予定。

由井名誉会長に感謝のメッセージ

翌2日目の開会で松尾敬子大会長は挨拶で「昨日、魂、心、体に届く素晴らしい発表を聞かせていただいた。本日もその活動を発表させてもらいます。ポスターでの発表もあり、こちらも素晴らしい治癒症例が発表され

る。今日も有意義な大会にしよう」と挨拶した。由井名誉会長は「様々な難病が増えていますが、自然とハーモニーを持って生きていくことが大切なのです。ホメオパシーがパッシングを受けた時、切り抜けてくれたのは、自然農への方向転換でした。インナーチャイルドについて教え始めた

当初は驚かれましたが、今では多くの方が賛同してくるようになりました。治療家には、必要なのは愛です。それがなければ治療はできません。人生を生きる時、山あり谷あり。時々辛いことがあると止めてしまいたい、と思うことがありますが、しかし、それらも生きていくからこ

感じることができると語った。続いてJPHMA理事一同より松尾会長が代表して由井名誉会長に感謝のメッセージを伝えると、2日目の症例発表は、犬の胆汁障害性肝炎における急性期にQX-1とSCIOを使って対処したケース。今村香ホメオパス(滋賀)、インナーチャイルドの気づきと治療力アップに有効な日本のジェモエッセンス。片上敦子ホメオパス(練馬)、織維

こと気づいた体験談、娘を失った私が「許せない」という怒りの感情と向き合い気づいたこと。体験談が話された。そして由井名誉会長の基調講演。「体・心・魂を癒す氣の医学ZENホメオパシーが人類を救うカルマ 難聴の難聴のケース」と題して行った。由井名誉会長の霊的な見解としてはこの他人を信用できなくなった理由や難聴の原因は、今世だけの問題ではなく前世からのテーマを継いでいると語った。

こんな風に物事を考えるのは初めてです、と言いつつも由井名誉会長のアドバイスを真剣に聞き、素直に実践すること若者が、大きく変化して行く過程が紹介された。体は熱を出し、膿や汁を出し、皮膚症状を出して行き、心は過去世を再体験するような様々な感情の浮上が起こったこと。

そして毎日の祝詞心経やインナーチャイルドを通して信仰心が高まることで、難聴や耳鳴りは改善で気にならなくなり、大きく腫れあがった耳の後ろのコブも綺麗に平らになりました。さらに大学受験も大に合格することができました、と。

ZENホメオパシーは体・心の問題と共に霊的な問題にも対応できる素晴らしい治療法であることが感じられる分けるケースだった。「人を治療する真の治療家とは、病気になる原因をあらゆる側面から探し出し、魂、心、体の全てをかんがみて治療する」というのが、その日本の夾竹桃から

「緊急手術も想定していた卵巣の腫れが短期間で消失したケース」 田砂江子(福岡県電産谷) 「水のレメディーによる甘酒の糖度の変化」 関守桂子 CHHome学生 「家族全員がレメディー・フラウエッセンスをとり、精神面で相互に影響し合い改善したケース」 岡本祥子(東京吉祥寺御殿山) 「発達障害(自閉症)が改善し、生き生きと学校生活ができるようになったケース」 安武由希子(福岡香椎)

筋痛症の激痛から解放され、日常生活と未来への希望を取り戻したケース。佐藤文子ホメオパス(札幌)、職場での不安感と動悸・不眠・アルコー依存と鬱からの脱却。杉浦美奈子ホメオパス(愛知三河安城) から発表された。

来賓発表でフラウエッセンスの研究者である東昭史氏が「日本のフラウエッセンス最新事情」と題して講演した。その後、昨年のコンGRESS以降、新たに認定を受けた、プロフェッショナルホメオパス、ファミリーホメオパス、インナーチャイルドセラピストに由井名誉会長、松尾会長から各コースの代表の方々に認定が授与された。

その後、相談と水のレメディーで自分を愛する

次に海外来賓講演でロジャー・ソネンシュミット氏は「日本の夾竹桃(オリアンダー・トリマキ)のレメディーと放射線の関係性」と題して講演した。

日本ホメオパシー医学協会(JPHMA) 由井名誉会長が代表を務める日本豊受自然農株式会社からロジャー・ソネンシュミット氏に贈られた日本の夾竹桃の花。

ロジャー氏は、オリアンダー・トリマキというレメディーが人々に与えるメッセージは「希望、自信、そして、普通の限界を超える事が起こった時に乗り越える事が可能

にする意志力」だと笑顔で力強く語っていた。このレメディーのメッセージは、地震や津波といった災害や戦争や放射能などによる傷を負った日本人をはじめ多くの人々の希望となる。最後に、ロジャー氏とオリアンダー・トリマキのブルーバーの同志の方達から由井名誉会長へ親愛を込めたとても美しいメッセージカードがプレゼントされ、オリアンダー・トリマキのつなぐ日本とドイツの縁に感動の拍手が会場から起こった。



今年も多くの方がホメオパスの認証を受けた



基調講演する由井名誉会長



豊受クリニックの高野院長



東昭史氏



米丸氏



20周年記念祝賀会で餅つきをする由井名誉会長